

認定 NPO 法人きらりびとみやしろは、2006(平成18)年 5月
毎日新聞社主催「毎日介護賞」最高賞を受賞しました。

「毎日新聞」2007(平成19)年12月29日掲載

住民同士がちょっとした手助けをする有償ボランティア「助け合い活動」を98年、埼玉真宮代町で始めた。介護保険制度などでカバーできない買い物や庭仕事、掃除、洗濯などをこなす。頼んだお年寄りらが15分200円の手ケットで謝礼を支払う。

福祉の世界に足を踏み入れたのは、同町役場に勤

助け合い活動で毎日介護賞のNPO代表

井上 恵美さん (57)



て15年目の89年。初の異動で水道課から福祉課係長になった。ニーズを探ろうと、ヘルパーに同行して地域の家庭を訪問した。ところが、1人暮らしの女性にヘルパーの作った食事を「一緒に食べましょう」と誘われても、高齢女性に「一緒に暮らす息子の食事も作って」と頼まれても断るしかなかった。行政ができるのは制度で認められた最低限のサービスのみだった。

そんな時に知ったのが有償ボランティア。「すべて行政がやってお金がいくらあっても足りない。誰でも年を取るんだから、住民が助け合える地域を作らなければいけない」。仲間を募り、00年にNPOの資格を取得。活動に専念するため、03年役所を辞めた。

「助け合い活動」を始めて間もなく10年。「一生懸命やっていれば必ず誰かが助けてくれた」と振り返る。会員5人から始まった助け合いの輪は450人に広がった。「どんな小さな一歩でも、進めていけば地域は変わる」と確信している。

文と写真・稲田佳代

東京都出身。00年からNPO「さわやか福祉の会 きらりびとみやしろ」理事長。夫と1男1女。